

[原著論文]

日本語学習者の学習効果を高める方法に関する一考察 －モンゴル語母語話者を対象とする－

于 衛紅*

A Study of the Ways to Better the Language-learning Effect of Japanese Learners －Take the Japanese Learners Whose Mother Tongue is Mongolian as Subjects－

Wei Hong YU*

Abstract

Centered on the various problems encountered by the native Mongolian learners of Japanese in Inner Mongolia Autonomous Region, this paper is intended to make a comprehensive analysis of current situation and defects of Japanese language teaching focusing on specialist of Japanese language teaching syllabus, textbooks, teaching staff, and learners' lack of faculty to self-study. In the meantime, the author puts forward some methods to improve the situation and solve the problems so as to improve Japanese language teaching and cultivate more excellent professionals proficient in Mongolian, Chinese, English and Japanese language to further Sino-Japanese communications in culture, politics and economy.

KEY WORDS : Mongolian learners of Japanese Language; learning effectiveness; Japanese language teaching; faculty to self-study

1. 始めに

内蒙古自治区の日本語学習者数は中国の他の地域と比べてかなり多いといわれている。歴史上から見れば、日本と緊密な繋がりを続けてきたので、日本に対するイメージが良い、並々ならぬ関心を抱いているモンゴル人は多いからであろう。このような状況からか、内蒙古自治区での日本語学習者や日本語教育機関は以前より増加する傾向であり、日本語学科を設置された学校数もだんだん多くなってきた。筆者の所属している内モンゴル大学の日本語学科には漢民族日本語学習者

クラスとならび、モンゴル族学習者ための「モンゴル語母語話者クラス」をも設けている。これも他の大学と比べて地方的な特色に富んだユニークなところである。小論では内モンゴル大学の日本語学科のモンゴル語母語話者を対象とする日本語教育法の改善を目的とする考察を行う。

内モンゴル大学は1957年に設立され、中国少数民族地区の中で最も早く設立した総合大学であり、日本語教育が1979年に始まって一番早くスタートした機関でもある。33年間にわたって、各分野で活躍している数多くの日本語人材を育成した。地方特色と

* 内蒙古大学外国语学院

* Foreign Languages College of Inner Mongolia University

して、2000年から日本語学科は元々の中国語母語話者クラスの他にモンゴル語母語話者クラスも年に一クラス設置されるようになった。言語の側面からは、モンゴル語は日本語と同じSOV言語であり、モンゴル語の語順は日本語の語順に極めて近い（亀井他1992）。モンゴル語には日本語の助詞や助動詞と同じような働きをする語があり、名詞あるいは動詞の後に置かれ、さまざまな文法的な意味を表すことから日本語の文法にはかなり近いと言われている（町田2008）。このように、日本語とモンゴル語は類似しているため、モンゴル語母語話者の日本語学習者にとって日本語は習得しやすい言語であるとししばしば言われる¹。上述したいろいろな便利さから考えてみれば、他言語母語話者と比べ、モンゴル語母語話者クラスの成績はきっと優れていると考えがちであろう。実はそうではない。卒業するまでの成績は中国語母語話者クラスより相当劣っているのは客観的に存在している。十年間の教学経験の模索を通じ、少しずつモンゴル語母語話者を対象とする日本語教育法を探ってみたが、未成熟な考えをここで一つの試みとして提出し、多くの優秀な日本語教育者と議論してみよう。

次は、現段階で気づいた問題点及びその改善策について述べたい。

2. カリキュラムの設置問題

内モンゴル大学の日本語学科は歴史が長く、一貫したカリキュラムと教育大綱が何年間の模索で評価されるようなものになった。しかし、それはモンゴル語母語話者学習者を対象として作られたものではなく、すべての学習者に適用するものである。

実は、ほとんどのモンゴル語母語話者学習者は生活環境の制限で、基礎教育のレベルは他の地方と比べて遅れている。入学当初、中国語さえもろくに話せない学習者も結構いる。中国語母語話者の学習者と同じカリキュラムを要求されるのは適切ではない。同じ授業科目、同じ卒業単位数、同じレベルの卒論提出など、多くのモンゴル語母語話者学習者を悩ませている。本学科では学校の決められた全学共通履修科目のほかに、日本語学部の決められた必修科目66単位、選修科目33単位、学年論文及び卒業論文8単位をおさめなければ学位記は授けられない。この必修科目の中に、総合日本語²、高級日本語³、日本語会話、日本文化などが含まれている。これらの科目は日本語専攻の主幹科目として、習得しなければならないと思う。これに対

して、日本語概説、読解と作文、日本文学、翻訳、日本経済貿易などの科目も必修科目と大体同じく重要視されて、年々開設されている。

以上の科目の中でモンゴル語母語話者学習者が一番困っているのは翻訳だろう。四つの学期に分かれて12単位もある大切な科目であっても、日本語の中訳、中国語の日訳とか授業の要としてやってきた。これはモンゴル語母語話者学習者にとってかなり難しいものとなっている。日本語をモンゴル語に訳すとか、モンゴル語を日本語に訳すのはかなり簡単だが、そもそも中国語で困っている学習者にいきなり中国語を使わせるのは本当に無理なことになるかもしれない。しかし、どんな苦しくても、その授業の単位をとらなければならないから、一生懸命に努力して、四苦八苦で低い点数でぎりぎり合格できるのはよく見られる光景である。

したがって、モンゴル語母語話者学習者に適用するカリキュラムの設定は非常に重要だと思う。文化、文学などの授業についてモンゴル族固有のものと比較するような科目を設置すべきである。そのほか、翻訳の授業は日本語をモンゴル語に訳すとか、モンゴル語を日本語に訳すとか学生の得意な母語を利用するのは効果的なものである。学年論文と卒論の字数、テーマ範囲などの要求も他の学習者と違うように改善する必要があるではないか。要するに、カリキュラムと大綱の修正はモンゴル語母語話者学習者の学習環境を改善するため一番大切な任務である。

3. テキストの問題

現段階で日本語学部の学生に使っている教科書はみんないっしょで、モンゴル語母語話者を対象とした専用教科書は作成していないという現状である。これも学習者の学習意欲に影響する一要因となる。中国語の説明付きのテキストは彼らの目の中に親しみにくい、さらにうまく理解できないなどの大きな差支えになってしまった。

モンゴル語母語話者クラスが設置されて12年目になり、モンゴル族の日本語人材を200人以上社会に送り出した。クラス規模としては過去の20人から30人に増え、毎年応募者の数も伸びているから、今後も続けて学習者を募集し、特色として広めていくと考えられている。だから、モンゴル語母語話者に適用するふさわしい教科書を作らなければならない。特に初級段階に使う総合日本語の教科書は文法、表現の解説や単語の説明は中国語ではなく、モンゴル語を利用

すれば便利になるにちがいない。言葉のニュアンスを気軽に身につけられるし、母語説明のついたものをつかって、勉強意欲も湧いてくるだろう。

日本語学部教師の力だけでは解決できないかもしれないが、数多くの日本語を専攻しているモンゴル語母語話者およびモンゴル語を研究している日本人、中日両国の研究団体の協力をいただければ、テキスト不適合の難問を解決できないわけではない。これはモンゴル語母語話者の学習成績を向上するためによく利く方法であろう。

4. 教師の資質及び指導法の問題

モンゴル語母語話者を対象とする日本語クラスの設立に伴って、専任教師としてモンゴル語母語話者の日本語教師も何人かを募集してきた。外国で博士学位をもらった優秀な人材は高学年の授業しか担当しない現状にあって、低学年の基礎段階の授業はやはりモンゴル語母語話者の専門教師が足りないのである。入学したばかりの学生が日本語勉強の初心者で、中国語がろくに話せない実情もあるし、モンゴル語がわからない教授者に向かって、何語を使ったらいいかという躊躇いを抱かねばならないだろう。その苦悶は学習者本人でなければわからないに違いない。したがって、少なくとも、学習者と教授者の間に意味疎通のための通じ合う言葉があったほうがいいと考えている。そうすれば、文法の説明、語彙間のニュアンス、本土文化との異なりとかについて学習者にうまく理解させるようにできるだけでなく、授業活動に大切な学習者と教師との協働もできるようになる。要するに、モンゴル語母語話者を対象とする日本語クラスにとってモンゴル語がわかる教師陣の改善が必要となっている。

一方、モンゴル語母語話者を対象とする授業指導法についてのこともよくよく考えなければならない。日本語がモンゴル語と似ているものもあり、大変違っているものもある。本土文化を沿いながら日本文化への理解及び日本語能力アップに役に立つものだ。現在、内蒙古大学では日本語を学習する教育環境は昔と比べて整っているが、日本語教授法は固有のものに拘り、改善のペースが遅れている。日本語学習において、従来の教師主導の一方による授業意識から学習者同士が主体となる双方向活動への意識転換、互いに学びあうという覚悟でコース展開しなければならない。日本語研究室のメンバーをはじめ、招聘された日本人教師も含め、学生にふさわしい教授法を磨く必要がある。

そのため、授業を担当する教師を積極的に教師研修などの形で日本或いは国内一流の大学及び教育研究機関に派遣して、最新教授法の探求に力を入れるべきだ。

5. モンゴル語母語話者自身の自律学習能力の問題

モンゴル語母語話者学習者がほとんど草原の奥か都市を離れた辺鄙な牧畜地帯から来ている。都市生活に慣れない、他民族文化へのぶつかり、学習効果の不如意等は学習者の勉強意欲、自信に影響する主な原因になっている。入学当初はこつこつ勉強しようと思決心した学生は学習内容が深まるにつれて成績が下がったり、落ち込んだりする人も少なくない。もちろん、学生を勉強意欲が生み出せるのに役目を果たしているのは教師であるが、学習者の積極的、自主的に授業活動に協働する意識も大事であろう。学習者が過度的に教師に依存し、学習の全過程において受動的に授業活動に参加するのはあまり効果的ではない。そのため、学習者の勉強意識を引き出し、学習自律性を高めることは最も大切なことではないか。学習者固有の学習内容がすべて先生により教えてくる意識を変え、最終目標達成するための段階的なタスクを設定し、モンゴル語母語話者学習者にふさわしい学習ストラテジーを引き出し、以前より優秀な多言語人材をしだいに育成できるに違いない。

6. 終わりに

本研究は日本語専攻のカリキュラムの設置、学生の能力に合う日本語テキストの作成、教師の資質及び指導法の改善、モンゴル語母語話者の自律学習能力アップなどの面からモンゴル語母語話者を対象とする日本語教育効果の改善を目的として考察を行った。そもそも、モンゴル語母語話者を対象とする日本語教育が内蒙古自治区の特色教育だとも言える。近年、日本に留学するモンゴル人の数も年々増えているし、日本企業に就職するモンゴル人も多くなってきた。以上述べた四つの問題点を改善すれば、学習者の勉強意欲を促進し、日本語学習者により良い言語学習環境を作り、日本語学習者の言語学習効果を高めることができるにちがいない。モンゴル語、中国語、英語、日本語という多言語が使用できる優れた人材の育成は可能になり、日中両国が政治、経済、文化などの分野での交流をより一層深められるだろう。

Received date 2012年7月13日

用例の出典

- ¹ 蘇迪亜, (2010)『ことばの科学』「モンゴル語母語話者の日本語母音の音声的特徴について」名古屋大学言語文化研究会 p6
- ² 日本語教育の基礎段階において, 日本語を総合的に集中して学習する科目である.
- ³ 総合日本語と並び, 日本語教育の高級段階において学習する科目で, 上級日本語とも言える.

参考文献

- 1) 亀井孝 他 編著, (1992)『言語学大辞典 第4巻』三省堂
- 2) 大和隆介, (2005)『言語学習と学習ストラテジー: 自律学習に向けた応用言語学からのアプローチ』リーベル出版
- 3) 国際交流基金, (2009)『海外の日本語教育の現状: 海外日本語教育機関調査』国際交流基金日本語国際センター
- 4) 町田健, (2008)「モンゴル語」『言語世界地図』新潮社
- 5) 岡崎敏雄, (1990)「日本語教育における自律学習」『広島大学日本語教育学科紀要』2号
- 6) ガンツェツェグ, (2007)「モンゴルにおける日本語教育の改善: 自律学習能力を高めるために」『昭和女子大学大学院言語教育・コミュニケーション研究』2
- 7) 蘇迪亜, (2010)『ことばの科学』「モンゴル語母語話者の日本語母音の音声的特徴について」名古屋大学言語文化研究会
- 8) 内蒙古大学, (2008)『外国語学院日本語学部本科生教学計画』内蒙古大学外国語学院